

○ 新型コロナウイルス感染症対策専門会議の開催状況について

第1回(R2. 4. 17書面開催)

議 題 ・軽症者に係る宿泊療養について

主な意見等

- ・医療崩壊を防ぎ、病院が重症者に対応できるよう軽症者の宿泊療養は望ましい。
- ・急激に症状が悪化する事例もあり、経過観察と急変時の対応が最も重要と考える。

第2回(R2. 4. 27書面開催)

議 題 ・新型コロナウイルス感染症軽症者の宿泊療養について

主な意見等

- ・札幌圏域での医療提供体制維持のため、宿泊療養体制を拡充することに賛成。
- ・各地域でも、今後感染者が増えた場合に備え、あらかじめ準備することが望ましい。

第3回(R2. 7. 9書面開催)

議 題 ・新たな「流行シナリオ」について

・「推計最大患者数」について

主な意見等

- ・北海道の地域性を考慮する必要がある、二次医療圏単位での状況把握と連携が必要。
- ・フェーズ毎に設定した病床数を確保する為に準備病床からのスムーズな移行が重要。

第4回(R2. 7. 21対面開催)

議 題 ・今後を見据えた新型コロナウイルス感染症の医療提供体制について
主な意見等
・検体を採取した後、速やかに結果が報告できるような体制をお願いしたい。

第5回(R2. 9. 30書面開催)

議 題 ・電話相談体制を整備した医療機関及び診療・検査医療機関の整備方針(案)について
主な意見等
・体調不良者に受診フローを理解していただくため、道民への丁寧な説明を繰り返し行う必要がある。

第6回(R2. 10. 26対面開催)

議 題 ・インフルエンザ流行期における発熱患者対応について
・政令の一部改正を踏まえた今後の医療提供体制について
主な意見等
・国の指針に則った計画が作られている。
北海道は重症者がそれほど増えていないため、何とか乗り切りたい。

第7回(R2. 11. 6書面開催)

議 題 ・札幌市における軽症者に係る自宅療養について
主な意見等
・患者の発生状況を踏まえると、自宅療養は仕方がないが、療養者へのケアをしっかりと欲したい。

第8回(R2. 12. 11書面開催)

議 題 ・「やむを得ず自宅療養を行う場合の体制」について

主な意見等

・自宅療養とすることでの同居家族に感染させてしまうリスクがあることを、事前に患者に理解・同意いただく必要がある。

第9回(開催中止)

第10回(R3. 4. 14書面開催)

議 題 ・新型コロナウイルス感染症変異株に係る積極的疫学調査等について

主な意見等

・変異株であるかの判定は、今後の対策を考える上で重要な判断材料となるので、陽性検体はできる限り確認すべきと考える。

第11回(R3. 4. 26対面開催)

議 題 ・感染者急増時の緊急的な患者対応方針(案)について

・検査体制整備計画(案)について

・感染者情報の公表の見直し(原案)について

主な意見等

・患者がある程度回復したら後方転院が重要となるが、感染増加時は、スムーズにいかなくなるため、基準を決めていただければと思う。

・検査時間の短縮を考えていただきたい。

第12回(R3. 10. 27対面開催)

- 議 題
- ・今後の保健医療提供の構築方針(案)及び計画策定について
 - ・検査体制整備計画の見直しについて

主な意見等

- ・来月、数値が確定し計画策定した段階で、道民に情報提供願いたい。

第13回(R4. 8. 5対面開催)

- 議 題
- ・保健医療提供体制の現状
 - ・オミクロン株の特性に即した保健医療提供体制のあり方について

主な意見等

- ・受診前に検査キットを配布する体制や、検査結果を登録するセンターの設置など、発熱外来の負担を軽減する仕組みを検討願いたい。

第14回(R4. 11. 1対面開催)

- 議 題
- ・新型コロナウイルス感染症及び季節性インフルエンザの同時流行に備えた対応について

主な意見等

- ・コロナとインフルの両方を診ることができる発熱外来が拡充されるとよい。
- ・各地域で入院・外来を担う医療機関の情報共有しながら、地域合意の下、取り組む必要がある。

道内における新規感染者数の推移(R2.1.28～)

